

離婚親子 面会橋渡し

離婚によって別々に暮らす親子が会う「面会交流」をサポートする岡山市のNPO法人「岡山家族支援センターみらい」が発足から丸3年を迎えた。面会に立ち会うなど、県内唯一の支援団体として30組を超す親子の橋渡しに関わってきた。「子どもたちが親の愛を感じて育つために役立ちたい」。さらなるニーズの高まりが見込まれる中、メンバーは活動に懸ける思いを新たにしている。(岡崎創史)

「家族支援センターみらい」発足3年

面会交流は、子どもが踏み切れない父母らを依頼重ねることで別居している両方の親の愛情を感じる頼により援助する。面会親からの愛情を素直に受けことで安心感や自信を持つ日時や場所を決め、子ども入れるようになる。父母もつことができ、健やかなもを一方の親に引き渡し子も成長していく様子を見成長に望ましいとされたり親子で遊ぶ場につきられるのがやがいに「と近る。2012年4月施行 添ったりする。1年間を藤みち子理事長(73)岡山の改正民法で離婚時に取 目安に継続し、自分たち市北区津島福居。だけで連絡を取り合い、 今後はさらに活動の重要性が増すと予想される。県内の離婚件数は近年減りつ

た。 交流できるようになるこ

同センターは13年6 これまでに県内を中心 つあるが、一方の親が拒む月、家裁の調停委員や弁 に広島、香川県内を含め 場合に面会交流の実現を求護士、カウンセラーら23 た親子36組(継続中も含 めて岡山家裁へ調停を申し人で発足。面会交流の必 ず)をサポートし、うち 立てるケースは増加。15年

要性で互いに合意しつつ 2組が「目標」を達成し も、離婚相手と顔を合わせた。「最初は人見知りし せることへの抵抗感から ていた子どもでも回数

今後の活動について話し合う「岡山家族支援センターみらい」のメンバー＝15日、岡山市内



(241件)は05年(101件)の2倍以上に膨らんでいる。「男性の育児参加意識が進み、親権は無くても子どもと過ごす時間を大切にしたい」と考える父親が増えてきたためでは」と同センター。活動への潜在的なニーズは高まっているようだ。

とはいえ、面会交流の意義や支援団体の存在はまだ十分に知られていないといい、近藤理事長は「夫婦の別れが親子の別れであってはならない。面会交流の大切さを多くの人に知ってもらえるよう広報にも力を入れた」と話している。

問い合わせは同センター(070-5678-0226)。

日時や場所決め、付き添いも

36組サポート